

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	静岡県沼津市千本常盤町 5-1		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2271101145-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご利用者が自分らしく、安心して生活できるような支援を心掛けています。生活リハビリを念頭に置き、できる事、出来ない事を見極め、支援しています。「笑顔で介護」を本年の目標とし、職員一同明るく頑張っております。散歩や、買物等の日常的な外出はもちろん、ドライブやイベントへの参加と、ご利用者が外に出て楽しめる機会を提供しています。また、ホーム内で季節の行事を行ったり、季節の花や、ポップを飾り季節を感じて頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基に今年度は「笑顔で介護」という目標をたて、各フロアでもその目標に沿った目標を作り、職員が一丸となって達成するように努力している。また、日光浴、散歩、ドライブ等積極的に行い、利用者が楽しみを増やして生活できるように支援している。ホーム長は話しやすく、さりげなく職員のフォローや助言をしている。職員はプロ意識を持って、職員同士情報を共有して使用者のことを第一に考え、介護しているので利用者の表情は穏やかで落ち着いた生活をしている。また、地域で高齢者支援に力を入れていて、このグループホームの防災や地域の行事の参加にも協力してくれている。事業所側も散歩の時には明るく挨拶するように心がけ、地域の行事や交流のときには積極的に参加している。2階の入居者は元気な方が多く、季節の飾り物の制作や食事の下ごしらえなど積極的に行い、買い物にも同行し、グループホーム本来の生活ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔を決やさずともに笑い、皆で幸せを共有できる空間を創っています」の理念の下、支援しています。フロアに掲示し、常に意識するよう努めています。	理念は開設当初、職員みんなで話し合っで作ったものであるり、職員に浸透している。今年度は理念に基づき、「笑顔で介護」という目標をたて、各フロアでも目標を作り、必ず目にするケース記録のファイルに貼って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	散歩や、買い物時にご挨拶したり、お祭り等町内の行事には必ずご利用者と参加している。	自治会に加入し、回覧板も回ってくる。地区のお祭り、防災訓練、千本プラザのデイサービスのイベント等に参加している。散歩の時には元気に挨拶を心がけていると言葉をかけてくれ、差し入れなどもいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治会と協力し、高齢者を地域で見守る為の講座を毎年3日間のコースで行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ご利用者とそのご家族、行政、町内の役員の方達に近況報告を行い、情報を共有している。また、ホームの生活も見て頂いている。その際、出席された方よりご意見、ご感想、助言を頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月に一度開催し、自治会長、民生委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員等の参加があり、率直な感想や意見をもらって、サービス向上に活かしている。議事録は市の担当者に提出され、ファイルは玄関に置き、閲覧自由になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南部のグループホーム連絡会の時に活動報告を行っている。また、各種提出書類がある時は必ず持参し、協力関係が築けるよう努めている。	月に2回、グループホーム連絡会に出席している。市には事故報告など書類を提出しに行く時に情報交換している。年に2~3回包括支援センターに、「認知症サポーター講座」の講師を頼まれ受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が「身体拘束ゼロ宣言」を行っている事を周知し、事故対策委員会を中心に、介護方法を話し合い、工夫している。また、年に1回は身体拘束のホーム内研修を行っている。	事故対策委員会が中心になり、年1回全体会議の中で研修を行っている。座位を保てない利用者に対してクッション等の置き方のアイデアが出たりしている。本社で行う拘束の研修にも職員が参加している。訪問看護師からも意見を聞き実践している。	

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行っている。 個々の職員がご利用者に関心を持って接し 癒等の、変化に気付くよう努めている。発見後は速やかに事故報告書を作成し、原因や対策を話し合い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加しているが、現在対象の方がおられず、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書に沿って丁寧にご説明し、ご理解、ご納得頂いている。 入居後もご不明な点や、お問い合わせに対し、ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご来訪時や、ケアプランの説明時にお聞きしている。毎月の近況報告でも、ご意見、ご相談のある方はお声掛け下さる様加筆している。 玄関に意見箱を設置し、ご意見が直接本社に届くシステムも取っている。	家族の面会時、利用者の近況報告をし、要望や意見を聞いている。月に1度発送しているおたよりは担当職員が利用者の様子を直筆で記入している。家族から様子がわかり温かみを感じるとの感想が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見が出た時は、すぐに対応している。また、日頃から言いやすい関係を築くよう努めている。 毎月の全体会議や、ユニット会議の時に話し合っている。	全体会議、ユニット会議で利用者の介護方法について活発に意見がでて、検討し、情報を共有している。ユニットごとのケアの違いなども全体会議で意見交換している。管理者は個人的に職員の声を聞く時間と取るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際あらかじめ2日は希望休を取れるよう配慮している。 職員同士協力し、時間で帰れるようにしている。 本所で福利厚生にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年次計画で実施し、ホーム内研修も年2回外部の方をお願いしている。また、全体会議の時に社員の行動規範の研修を行っている。 資格取得のための助成金制度がある。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や交流を行っている。 ケアマネ連絡協議会や関係機関の主催する研修、会合に参加しネットワークを構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学の際や、初回面接に伺ったときなどに、お困りごとや不安な事、ご要望をお聞きしている。また、入居後も引き続きご意見、ご要望をお聞きし、話し合いながら信頼関係の構築に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のご相談をいただいた時点より、ご意見、ご要望、お困りごとに耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、必要な支援を見極め、できるだけ意に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を生活リハビリと捉え、無理なくできる事はして頂き、出来ない部分を支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお便りで毎月お知らせし、ご家族の来訪時にもお話しさせて頂いている。 ご家族と情報を共有しながら、関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が遠慮なく面会できるよう配慮している。 また来て頂けるよう声掛けを行っている。	新しく入居された利用者の友人や近所の方が面会に訪れてくれる。その時、職員も話の輪に加わることもある。散歩の出かけた時は明るく挨拶を心がけ、近所の方々と馴染みの関係になるようにしている。	

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中は散歩や外気浴に加え、歌や体操などの集団レクリエーションを行い、ご利用者同士の関係作りに努めている。また、良い関係が保たれるよう座席に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や、支援を行っている。転居先に必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を構築しながら話しやすい雰囲気を作り、お話を伺うようにしている。明確な意向を伺えない方は、表情や行動から意をくみ、ご家族の意向、希望と合わせ話し合いながら、ご本人本意に検討している。	支援していく中で、日頃からその場しのぎの安易な嘘はつかないように利用者との信頼関係を築いてお話を聞いている。意思表示の難しい利用者には些細な表情を見逃さないように観察して、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等をご本人や、ご家族に伺いアセスメント表にまとめ職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や、職員の気付き等を支援日誌に記録し、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを開き、個々の現状と課題を話し合っている。 モニタリングを3か月に1回、アセスメントを半年に1回行い、現状に即した物になるよう努めている。	ユニット会議で、カンファレンスを行い、医師、訪問看護師、家族の意見を参考に話し合っている。年に1回家族と温泉に一泊するのを楽しみにしている利用者の体調を維持するように職員全員で努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアを実践した結果や、気づきをその都度ケース記録に残し、申し送り等にて情報を共有している。この記録を介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟に対応するため、皆で話し合いニーズに添えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が月1回来て皆様とお話している。市、町内、千本プラザの行事や催事に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ホーム主治医の往診を受けている。他医院がかかりつけ医の場合は、基本ご家族に付添いをお願いしている。ご家族の都合が悪い時は職員が対応する事もある。往診、受診時は様子を伝え、相談し、指示を仰いでいる。	月に2回協力医の往診がある。協力医は他の病院を受診している利用者の体調の相談にもものってくれる。協力医の看護師と介護ステーションの訪問看護師が週に1回来てくれ、相談するとアドバイスをしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪し、健康管理を行っている。また、ホームかかりつけ医の看護師も週1回来訪し主治医との橋渡しや、相談、アドバイス、を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院の医師や担当看護師、ケースワーカーと情報交換し、スムーズに治療が進み早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、重度化における指針について説明している。その時が来たら主治医と交え、再度ホームの対応を説明し、書面にてご家族の意向を確認している。	入居時に終末期、重度化について指針があり、話している。その時が来たら医師より家族に説明があり、その後、施設の対応を話し、家族の意向を確認して同意書にサインしてもらっている。重度化のマニュアルがあり、訪問看護師の研修がある。	経験豊富な職員が医師の協力を得ながら利用者に寄り添って対応されているが、中には不安を持っている職員がいるので、更に研修を行ってください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や、事故発生に備えて応急手当や、初期対応の訓練を専門の方をお願いし、年1回行っている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に火災、地震、津波の訓練を年2回行っている。町内の防災訓練にも毎回参加している。火災、地震はご近所、町内会と協力体制ができている。津波はライフジャケットを用意し、着用訓練を防災訓練時に行っている。	防災委員を中心にあらゆる想定で年に2回訓練を行っている。うち1回は消防署の立会で、意見や注意を受けている。津波の時のライフジャケットは人数分以上備えてあり利用者にはジャケットの着用を慣れてもらうように訓練の時には毎回着てもらう。近隣の協力を取り付けていて、備蓄も1週間有	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった言葉がけや、声のトーンに配慮している。排泄、入浴、更衣時はプライバシーに配慮した支援を行うよう努めている。	利用者の尊厳を傷つけないように意識している。職員の声かけは丁寧で、頻繁に行われている。声のトーンも考えているので親しみが感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が思いを言いやすい雰囲気づくりと関係作りに努めている。 自己決定しやすいように選択肢を絞り、決定しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から要望がある時は、状態を考慮しながら、希望に添えるように努めている。 散歩やレクリエーション等の参加は、声かけはするがご本人の意思を尊重し、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は洗面、整容の声掛けや、介助を行っている。定期的に移動美容室を利用している。 季節感のある衣類の選択を助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には野菜の皮むき等をお願いしたり、下膳もして頂いている。ご利用者と一緒に広告を見ながら今日のメニューを決めたり、買い物にお連れした時に相談したり、野菜を選んで頂いたりしている。	2ヶ月に一度は外食を楽しむ機会を設け、誕生会等も利用者の希望のメニューを楽しんでいる。普段はできる人に野菜の皮むきやテーブル拭き等手伝ってもらっている。また、メニューを考えたり買い物と一緒に出かけたりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態で提供している。 食事量、水分量はその都度記録している。 摂取量の少ない方には、お好きな物に替えて提供する等必要量の確保に努めている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、昼食後はお茶で嗽を行い、夕食後はブラッシングをし、義歯の洗浄、消毒をしている。ご自分でするのが無理な方は、介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難な方でも職員2人対応でトイレにお連れしている。また、オムツ対応の方でも排泄の状況や、入浴前にトイレに座って頂き、排泄を促している。	2階はほぼ全員が布パンツ、その他の利用者も日中はリハビリパンツやパット仕様で対応している。排泄表や水分チェック表でトイレ排泄の支援に努めている。お腹のマッサージをこまめに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、野菜多めのバランスの取れた食事を提供するよう心掛けている。個々の方に合わせた運動を行ったり、温タオルで腹部マッサージを行う等して、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は無理強いせず、ご本人の希望、タイミングに合わせて声掛けしている。また、入浴が無理な方は全身清拭を行っている。入浴剤を使用し、歌を歌ったり、お話をしながらゆっくり入浴できるよう努めている。	週に2回～3回無理強いせずに対応している。入浴時にはリラックスしてもらい職員との会話を楽しんでいる。昔話やぐち話が出ることもある。拒否の強い人にはタイミングをずらしたり人を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や個々のペースに合わせ、声かけし対応している。寝具も清潔に保ち、湿度、室温、明るさの配慮し、気持ちよく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報にて目的、用法、副作用を確認している。また、薬の変更時には様子観察を行い情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物、ドライブ、散歩等にお誘いし、気分転換を図って頂いている。家事や身の回りのことのできる事はお願いし、役割が持てるよう努めている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な希望に沿う事は難しいが、日程の調整をし、希望に添えるよう努力している。地域の催し物や、交流会に出掛けている。	地域のイベントや千本プラザへ出かけている。行事担当委員が季節のドライブを計画、実施している。最近では三島に菊まつりに出かけた。食材の買い物は利用者が同行し、個人的な買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はホームで管理している。ご自分で管理できる方は、数千円程度を自己管理し、外出時等に欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話できる方には申し出によりいつでも対応し、取次ぎもしている。届いた手紙はご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝清掃を行い、清潔に努めている。明るさや湿度、温度、TVのボリュームにも気を配っている。季節ごとに飾りつけを行い、野の花や季節の花を飾り季節を感じて頂けるよう配慮している。	日当たりの良い広間に利用者の方たちのクリスマス共同作品が飾ってあった。ベランダには洗濯物や布団が干され生活感がある。浴室やリビングはきれいに清掃されていて、温度、湿度は計器で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士、ソファに座りTVをご覧になったり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂いている。家具等の配置は、ご本人、ご家族の希望に沿うようにしているが、ご本人の状態によりアドバイスさせて頂く事もある。	使い慣れたタンスが置かれ、カーテンは家族が落ち着いた色合いのものをつけてくれてある。衣類や布団の季節の交換は家族が行い、自宅で保管され、部屋はスッキリとされていた。ベッドの配置は動線や安全性を考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、手すりが設置されている。トイレや風呂場は分かり易いよう表示している。通路には物を置かず導線を広く確保し、安全に生活できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	静岡県沼津市千本常盤町 5-1		
自己評価作成日	平成29年11月23日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2271101145-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29 年	12 月	9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご利用者が自分らしく、安心して生活できるような支援を心掛けています。生活リハビリを念頭に置き、できる事、出来ない事を見極め、支援しています。「笑顔で介護」を本年の目標とし、職員一同明るく頑張っております。散歩や、買物等の日常的な外出はもちろんドライブや、イベントへの参加と、ごりようしゃが外に出て楽しめる機会を提供しています。また、ホーム内で季節の行事を行ったり、季節の花や、ポップを飾り、季節を感じて頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは家庭の雰囲気の中で笑顔を決やさずともに笑い、皆で幸せを共有できる空間を創っていきます」の理念の下、支援しています。 フロアに掲示し常に意識するよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や、買い物時にご挨拶したり、お祭り等町内の行事には必ずご利用者と参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治会と協力し、高齢者を地域で見守る為の講座を毎年3日間のコースで行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ご利用者とそのご家族、行政、町内の役員の方達に近況報告を行い、情報を共有している。また、ホームの生活も見て頂いている。その際、出席された方よりご意見、ご感想、助言を頂きサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南部のグループホーム連絡会の時に活動報告を行っている。また、各種提出書類がある時は必ず持参し、協力関係が築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が「身体拘束ゼロ宣言」を行っている事を周知し、事故対策委員会を中心に、介護方法を話し合い、工夫している。また、年に1回は身体拘束のホーム内研修を行っている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行っている。 個々の職員がご利用者に関心を持って接し 癒等の、変化に気付くよう努めている。発見後は速やかに事故報告書を作成し、原因や対策を話し合い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修には参加しているが、現在対象の方がおられず、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書に沿って丁寧にご説明し、ご理解、ご納得頂いている。 入居後もご不明な点や、お問い合わせに対し、ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用者、ご家族に参加して頂き意見を伺っている。 ご来訪時やプランの説明時にも伺っている。 玄関に意見箱を設置し、ご意見が直接本社に届くシステムも取っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見が出た時はすぐに対応している。 全体会議、ユニット会議で提案、意見交換ができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際はあらかじめ2日は希望休を取れるよう配慮している。 職員同士、時間で帰れるよう協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年次計画で実施し、ホーム内研修も年2回外部の方をお願いしている。 全体会議の時に社員の行動規範の研修も行っている。 資格取得のための助成金制度がある。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や交流を行っている。 ケアマネ連絡協議会や関係機関の主催する研修、会合に参加しネットワークを構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学の際や、初回面接に伺ったときに、お困りごとや不安な事、ご要望をお聞きしている。入居後、「家に帰りたい。」と言われる方の話も根気よくお聞きし関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族のご意見、ご要望を伺い、一緒に考えて行きながら関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、必要な支援を見極め、出来るだけ意に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするという気持ちを持って、一緒に食事を作ったり、掃除をしたり家事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお便りでお知らせしたり、来訪時にお話しし、情報を共有しながら、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の近い方は散歩時に様子を見に行かれたり、馴染みのスーパーや、商店に買い物に行くなどしている。 友人、知人の方が訪問しやすいようお部屋の対応に気を配っている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前と午後に体操や、歌等の集団レクリエーションの時間を設け、ご利用者同士の関係作りをしている。また、ご利用者同士の良い関係が保たれるよう座席に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援を行っている。転居先等に必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の下、話しやすい環境を作りその中から希望や、意向を汲み取り、職員間で共有している。また、意思表示の困難な方はご家族の希望、意向をお聞きしてカンファレンスで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境をご本人や、ご家族に伺いアセスメントにまとめ、その情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や生活リハビリの様子をケース記録に時間を追って記入し、申し送り等で情報を共有して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、ご本人、ご家族、職員の意見、意向をあわせて検討し、現状に即したプランになるよう努めている。モニタリングを3か月に1回、アセスメントを6か月に1回行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って実践し、気づき、結果、変化等をできるだけ正確にケース記録に記入している。その記録に仕事に入る前に目を通し、申し送りで情報を共有している。その記録を基に介護計画の見直しを行っている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急を要するニーズに対しては、その日出勤の職員で話し合い、ニーズに添えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員さんが月1回来ている。広報や、回覧板を見て近隣のイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の医師の往診を受けている。協力医以外の受診は、日頃の様子や、変化をお伝えし基本ご家族にお願いしている。ご家族の都合により職員が対応する事もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪するので、ご利用者の様子を伝え、情報を共有している。また、協力医の看護師も週1回来訪するので、体調管理や、処置のアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医師、ケースワーカー、担当看護師と情報交換し、スムーズに治療が進み、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、重度化における指針について説明している。その時が来たら主治医を交え、再度ホームの対応を説明し、書面にてご家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や、事故発生に備えて応急手当や、初期対応の訓練を専門の方にお願ひし、年1回行っている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に火災、地震、津波の訓練を年2回行っている。町内ん防災訓練にも毎回参加している。火災、地震はご近所、町内会と協力体制ができています。津波はライフジャケットを用意し、着用訓練を防災訓練時に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、個々に会った言葉かけや声のトーンなどに配慮している。排泄、入浴、更衣の介助時は、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り関係作りに努めている。。自己決定しやすいような声掛けをし、勝手な思いで決めつけないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望がある時は、その日の状況を見ながら、希望に添えるようにしている。外出や、レクリエーション、入浴の提供時、拒否が見られたら無理強いせずご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗顔、整容の声掛けを行い、必要な方は介助している。2か月に1回移動美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、食材を選び、メニューを相談している。野菜の下ごしらえや、味付け、盛り付け等できる事は一緒に行っている。できる方は、配膳、下膳も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に会った食事形態で提供している。食事量、水分量をその都度記録している。摂取量の少ない方には、温度や、好みに配慮し必要量の確保に努めている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と夕食後はブラッシングを行い、朝食後と昼食後はお茶で嗽を行っている。夜間は義歯を預かり、洗浄剤に浸けている。ブラッシングが上手くできない方は、仕上げ磨きや、介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難な方は職員2人対応で行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日レクリエーションや、体操で身体を動かす時間を設けている。 水分を多めに摂って頂き、バランスの良い食事の提供を心掛けている。 温タオルでマッサージを行い排便を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングや状態により声掛けし、週2回のペースで入浴している。入浴剤を使用し、お話ししながらゆっくり入って頂くよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせ傾眠が見られたり、休息が必要な時は臥床時間を設けている。 寝具を清潔に保ち、室温、湿度、明るさに配慮し、安心して気持ちよく休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の確認を行い、飲み込みまで確認している。薬に変更がある時は、申し送りノートに記載し、口頭でも行い様子観察している。薬情報にて目的や、副作用を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い頂ける方には無理のない範囲でお願いし、役割が持てるよう支援している。 散歩、ドライブ、買物にお誘いし、気分転換して頂いている。		

静岡県(グループホーム くすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿えるよう努力しているが、急な場合は難しい。 2か月に1回の外食支援や、催し物への参加など予定できるものはご本人の希望に沿って支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はホームで管理しているが、ご本人の希望と、ご家族の思いで少額を所持している方もいらっしゃる。買い物時に個人買いくる事もあるが、支払いは、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望すればいつでも電話できるよう対応している。また、取次ぎも行っている。お手紙や、小包はご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアの飾りを替え、花を飾る等して季節を感じて頂けるよう工夫している。 毎朝一緒にホーム内の掃除をし、気持ちよく生活できるようにしている。 照明や、室温、TVのボリューム等に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士近くの席にしたり、その時の関係性により、座席に配慮している。 ソファで仲良くお話しする姿も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置はご利用者と家族の希望を優先しているが、状態によりアドバイスさせて頂く事もある。 できるだけ馴染みの物をお持ち頂き、居心地の良いお部屋になるようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、手すりが設置されており、トイレや風呂場は分かり易く表示されている。 通路には物をなるべく置かず、導線を広く確保できるようにしている。		